



こうち
デジ活
アワード

2025年度受賞企業の声



2025

グランプリ

ミタニ建設工業株式会社

「高知の未来を変える!建設DX ―現場・社内・地域をつなぐ挑戦―」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は?

これまで現場・本社・地域へと広げてきたデジタル化の取組を整理し、会社の成果を可視化したいと考え応募しました。また、第1回開催で初代グランプリを目指すことは、当社の挑戦を県内外へ発信し、高知発の建設DXモデルとして、業界全体への貢献や企業ブランディング、採用力向上にもつながると考えました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか?

単なる事例紹介にならないよう、背景・課題・工夫・成果の流れで構成しました。特に、残業削減、業務時間削減、売上増等をまとめた成果ページを設け、読み手がデジタル化と働き方改革、組織風土の変化とのつながりを理解しやすいよう工夫しました。また、積極的に画像やイメージ図を添付し、視覚的に理解ができるようにしました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか?

全国の建設会社が集まる場で事例発表の機会をいただき、取材も増えました。企業認知やイメージ向上につながっただけでなく、業界全体のデジタル化推進のモデルケースとして発信できたことも大きかったです。社内でも取組が成果として認められてことで、デジタル化推進の機運が高まり、DX認定やDXセクション挑戦にもつながりました。

その挑戦を、会社の新たな価値に変えませんか?

取組事例は
こちらから



総務部人事
村越さん



お話を
聞いたのは



2025

準グランプリ

株式会社垣内

「垣内DX～デジタルが生み出す高い効率性と働きやすい職場～」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は?

2019年から本格的にデジタル化に取り組み、社内には潜むさまざまな課題を解決すべく、業務情報の電子化・一元管理、IoT技術活用、人材育成などに注力してきました。これまで継続してきた取り組みの成果を広く発信し、県内のデジタル化推進に貢献するとともに、自社の推進の後押ししたいと考え応募しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか?

文字での説明に合わせ、画像やグラフを用いた「直感的な情報伝達」を意識し、取り組み事例や、経営指標の成果等を視覚化する一方、直面した苦労話なども盛り込み身近に感じられる資料作りを心掛けました。また、生成AIの活用により文章や画像を効率的に編集し、かつ理解しやすい内容にまとめました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか?

準グランプリという栄誉をいただき、これまでの歩みが評価されたことを大変うれしく思っています。受賞はさらなる推進の糧となり、社内ではデジタルマインドが一段と醸成され、自ら考え発想するボトムアップの風土が育ち始めました。今後は自社の推進のみならず、協力会社などへの水平展開にも取り組んでいきたいと考えております。

着実な歩みが
いずれ成果に繋がります。
まずは最初の一步を!

取組事例は
こちらから



企画室長
三谷さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025年度受賞企業の声



こうち
デジ活
アワード

2025

働き方改革賞

高知通運株式会社

「産学連携による物流DXの実現
～TMS(配車管理システム)の再構築と「AI予測機能」「最適化機能」との連携」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は？

AIを活用した物流DXや、産学連携による配車管理システムの高度化など、自社のデジタル化の成果を広く発信し、物流業界の人手不足や働き方改革のモデル事例として県内企業様へ展開し、皆さまにとって何らかの参考や刺激となればと思い、応募させていただきました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか？

取組の背景、課題、実施内容、成果が分かりやすく伝わる構成を意識しました。専門用語は必要最小限にとどめ、図表やイラストを用いてAIによる配車最適化の仕組みを視覚的に表現しました。また、業務効率化や働き方改革への効果を数値や実績とともに示し、取組の有効性と他社への展開可能性が伝わるよう工夫しました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか？

自社の物流DXの取組が第三者に評価されたことは大きな励みとなりました。社内では、デジタル化への理解や関心が一層高まり、現場からも業務改善に前向きな意見や提案が増えています。また、社員のモチベーション向上や組織全体のDX推進への意識改革につながり、今後のさらなる業務改善や新たな取組への後押しとなっています。

自社の取組を見直し、新たな
気づきと成長につながります。
ぜひ挑戦してください。

取組事例は
コチラから



デジタル化担当
川村さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025

働き方改革賞

株式会社トミナガ

「鋳造現場の看板をデジタル化し、トレーサビリティと品質を強化」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は？

高知県内の製造業DX担当者コミュニティで募集を知ったことがきっかけです。2024年10月に新規立ち上げた業革推進部で進めるデジタル化や業務改善の取り組みを社外へ発信し、トミナガの認知度向上に加え、他社の新たなアイデア創出や、高知県全体のDX推進にも少しでもつなげたいと思い応募しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか？

弊社を全く知らない方にも取り組みの背景や変化が伝わるよう、改善前の状態を示すため現場に足を運び、再現写真を撮影しました。また、業革推進部の活動が単なるシステム導入ではなく、働き方改革や業務効率化につながっていることを、時間外労働削減などの数字を用いて分かりやすく示すよう工夫しました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか？

受賞後、社内外から「見ました」と声をかけていただき、当初の狙いであったトミナガの認知度向上に寄与できたと感じています。また、賞金を全社員へ配分することで、今回の取り組みが日々の業務を支える従業員一人ひとりの協力によって形になったことへの感謝を伝え、社内全体で成果を共有する良い機会にもなりました。

それぞれの工夫を持ち寄り、
高知全体で
デジタル活用を広げましょう。

取組事例は
コチラから



業革推進部
大倉さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025年度受賞企業の声



2025

グッドアイデア賞

合同会社さのもと

「ご長寿世代も自動参加!高知発オンラインデイサービスの実現」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は?

当社は新事業チャレンジ補助金やIoT推進事業費補助金を活用し、「オンラインデイサービス」という取り組みを進めてきました。売上面ではまだ発展途上ですが、その先進性と新規性には自信があります。この挑戦をより多くの方に知っていただき、同じように悩む地域の事業者の励みになればと考え、応募を決めました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか?

言葉だけでは伝わりにくいサービスのため、実際にオンラインデイサービスをご利用いただいている様子を撮影した動画を用いて発表しました。利用者の表情ややり取りをそのまま見ていただくことで、取り組みの価値や雰囲気が直感的に伝わるよう工夫しました。文字や説明を重ねるより、現場のリアルな様子が一番の説得力になると考えたためです。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか?

地域の関係者の皆さまが、オンラインデイサービスにこれまで以上に関心を寄せてくださるようになったことが大きな変化です。以前から周知やプレゼンテーションを重ねてきましたが、賞をいただいたことが一つの後押しとなり、取り組みへの理解がさらに深まったように感じます。第三者からの評価が、信頼や新たなつながりへの手助けを得られました。

成果が出る前でも大丈夫。
前に進む思いがあれば、
ぜひ挑戦を

取組事例は
コチラから



代表社員
澤本さん



お話を
聞いたのは



2025

グッドアイデア賞

サンライズファーム株式会社

「QRコードとネットワークでつなぐ!ブリ加工～出荷・販売までの一気通貫DX」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は?

当社では、養殖ブリの加工から出荷、販売までをQRコードとネットワークで連携し、トレーサビリティや業務効率化に取り組んできました。こうした現場主導のデジタル化の成果を社内外に発信するとともに、県内企業の皆さまとの情報交換を通じて、今後のスマート水産業の発展につなげたいと考え応募しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか?

単なるシステム導入事例ではなく、「高知の魚の価値をどう高め、どう全国へ届けるか」という視点で資料を作成しました。水揚げから加工、出荷までの流れを整理し、現場の課題や工夫、デジタル化による変化をストーリーとして伝えることで、高知の水産業の魅力が伝わる内容を心掛けました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか?

受賞を通じて、日々の業務の中で積み重ねてきた改善活動が評価されたことは、社員にとって大きな励みになりました。特に現場スタッフからは、自分たちの取り組みが社外から認められたことへの喜びの声がありました。また、社内でもデータ活用や業務改善への関心が高まり、次のデジタル化に向けた前向きな機運が生まれています。

DXの力で、高知の魅力を
もっと多くの人へ。一緒に
未来をつくりましょう。

取組事例は
コチラから



デジタル化担当
楠永さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025年度受賞企業の声



こうち
デジ活
アワード

2025

グッドアイデア賞

株式会社のびる

「事業成長に伴う経営課題を、ドローンと独自技術開発のIT Toolによる新事業創設で解決する全社DX」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は？

デジタル技術がもたらす企業変革のポジティブな力を広く発信したいと考え応募しました。自社でデジタル化を進める中で、新たな価値の創出や、全社員が生き生きと快適に働ける環境づくりを実感したからです。高知におけるDXのモデルケースとなることで、一步を踏み出す地元の企業を後押しし、地域産業全体の振興に貢献することを目指しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか？

単体のIT導入にとどまらず、組織全体が一体となって進める「全社DX」としてアピールできるよう構成を工夫しました。ドローンや独自解析プログラムが持つ先進性を明確に打ち出すとともに、これらがもたらす社内インフラの変革や、将来的な技術者育成・新事業創設といった持続可能な「この先の展望」までを一貫して表現しました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか？

受賞により先進的な技術を持つ企業としてのブランドが浸透し、取引先や金融機関からの信頼が高まりました。また、社内では専門部署の新設によってデジタル人材育成が加速し、全社員のITリテラシーの向上に寄与しました。さらに、手作業の削減で生まれたゆとりをスキルアップに充てるなど、自ら考えて技術を磨く前向きな変化が生まれました。

人手不足の解消だけでなく
自社のブランディング
向上にも繋がります。
挑戦をしてみてください！

取組事例は
こちらから



デジタル化担当
竹内さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025

奨励賞

株式会社幸

「DXで有給休暇取得率100%を維持し、希望休の上限なしの取得率100%を目指します♪」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は？

職員が本来のケアに集中できる環境づくりを目指し、業務のデジタル化を推進。Googleの無料ツールを活用し、開発費0円・開発時間わずか2時間で現場に合わせたシステムを構築しました。特別な知識や高額なシステムがなくても、誰でも簡単に始められ、他の事業所でもすぐ実践できる取り組みとして知っていただきたいと思い、応募しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか？

極めて簡単で作りやすく、どの会社さんでも真似ができる仕組みであることを、分かりやすくお伝えできるように工夫しました！

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか？

普段の業務で何気なく使っているシステムが評価されたことはとてもうれしいです。「こうちデジ活アワード2025の表彰式のニュースを見たよ!」という声も聞こえてきました。幸にはこんないいデジタル化のシステムがあることを再認識しました。

ハードルが高く感じると
思いますが無料で気軽に
チャレンジできます！

取組事例は
こちらから



代表取締役社長
中平さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025年度受賞企業の声



こうち
デジ活
アワード

2025

奨励賞

株式会社城西館

「データの利活用による旅館DX(データドリブン経営)の推進」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は？

明治7年創業の老舗旅館がデータ駆動型経営に挑む姿を、広く県内に発信したいと考え応募しました。バラバラだった顧客・予約データをCDPで統合しデジタルを融合させることで、おもてなしにより注力できるようにと考えています。高知県の観光業界全体のデジタルシフトを加速させる一助になればと願っています。

エントリーにあたって工夫したことはありますか？

雑な「CDP」という概念を、図解(Before/After)などを用いて視覚的に伝えられればと思いました。専門用語を極力排除しつつ、「集計時間が10分の1に削減」「メールマーケティングで売上50万円」といった具体的な数値を明示することで、デジタルの導入がいかに実利(経済的成果)に直結するかを強調しました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか？

受賞により「データで判断する」文化が定着し、各部門から積極的な分析依頼が届くなど、社内のマインドが徐々に変化しました。また、経産省DX認定の取得やITパスポート合格者の増加など、社内のDXの加速にも繋がりました。外部からも取り組みへの相談が増え、老舗旅館としての新たなプレゼンスを確立できています。

小さなデジタル化の一步が、
会社全体に大きな成長の
花を咲かせますように！

取組事例は
コチラから



マーケティング部 DX担当
岡本さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025

奨励賞

新進建設株式会社

「Data&Technologyの活用による業務、人、組織のDX改革」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は？

基幹システムの老朽化やICT活用の重要性を背景に、高知県のモデル事業に選定されたことでDX推進体制を構築しました。グループウェアやドローンの導入で業務時間を20%削減し、週休二日制などの働き方改革で成果をあげています。これまでの取り組みをアピールし、社内のモチベーション向上に繋がりたいと考え応募しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか？

具体的な現場の課題を起点に目的を明確化したプロセスが伝わるよう工夫しました。DX1.0から2.0への段階的な進展を図解で示し、取り組みの全体像を直感的に理解しやすい構成にしています。また、業務時間削減といった定量的な成果に加え、従業員の意識改革など定性的な変化も併記し、多角的に見せるよう努めました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか？

「この業務は自動化・システム化できるのではないか」と考える習慣が定着し、社内で生産性向上への意欲が高まりました。デジタル技術がもたらす利便性や効率性への理解がさらに深まり、大きな意識改革が浸透しています。今後は本社主導から現場主体のデジタル化へのシフトを目指しており、その大きな原動力となっています。

私たちも手探りでした。
身近な課題から
一緒に一步を
踏み出してみませんか？

取組事例は
コチラから



総務部
上野さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025年度受賞企業の声



こうち
デジ活
アワード

2025

奨励賞

株式会社第一コンサルタンツ

「小規模トンネルの未来を照らす!カメラ搭載カートによる点検DX」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は?

地方自治体が管理する小規模トンネル点検は、限られた予算のハードルによって新技術の導入が遅れており、当社はこれを打破し低コストで効率的にインフラを守るシステムを開発しました。高知県のデジタル補助金や地域の産学連携から生まれたこの『高知発のモデル』の成果を広く発信し、全国の小規模なトンネル点検において展開したいと考え応募しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか?

資料では、従来の手書きスケッチから電動カート撮影、3Dモデル化、変状展開画像作成までの流れが一目で分かるよう、写真や図を中心に構成しました。また、作業時間の削減効果、国土交通省点検支援技術性能カタログ掲載、県内実績、県外受注などの客観的成果を示し、従来との違いや取組の価値が専門外の方にも伝わる表現を意識しました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか?

受賞により、現場の課題を起点にした当社のDXが社外から評価されたことを社員が実感でき、大きな励みとなりました。社内では、他業務でもデジタル技術を活用しようという前向きな声が増え、若手や地域の教育機関との連携をさらに進め、新たな技術開発に継続して挑戦する機運も一層高まっています。

支援制度や地域機関を活用し、デジタル化へ一歩踏み出しましょう!

取組事例は
コチラから



調査部 次長
尾崎 さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025

奨励賞

寺村葬儀社(株式会社テラムラ)

「葬祭業の未来を支えるデジタル改革～勤怠管理から業務、顧客サービスまでデジタル化推進～」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は?

弊社では長年、複雑な業務フローとアナログな勤怠管理による長時間労働が課題でした。この状況を打破するためデジタル化に舵を切り、残業40%削減を達成しました。この働き方改革と顧客サービス品質向上の両立という成果を、同じ悩みを持つ県内企業へ等身大の事例として共有したく応募しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか?

伝統的な葬祭業におけるDXの成果が直感的に伝わるよう、専門用語を避け、特に「年間720時間の業務削減」や「有休取得率25ポイント向上」といった劇的な実績数値を重視しました。高齢の社員でも迷わず使えることも強調し、現場に定着した「使えるデジタル化」のプロセスが伝わるよう工夫しました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか?

栄えある賞をいただき、全社で大きな達成感を共有できました。受賞が新聞やWebで発信されたことで、既存のお客様からの信頼が高まっただけでなく、色々な業者の方々からも声を掛けられ予想以上の効果を実感しています。社内でも「業務をデジタル化しよう」と、次の改善への機運が高まっています。

自社の取り組みを振り返り、次へ繋げる絶好の機会になります!

取組事例は
コチラから



総務課・社長室 課長 岡本さん
経理課 課長 中岡さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025年度受賞企業の声



こうち
デジ活
アワード

2025

奨励賞

福寿建設株式会社

「デジタル化による生産性・安全性の向上、現場の「見える化」に繋げる」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は？

人口減少による人手不足と業務の効率化という課題に対し、ICTの導入や業務のフローの見直しを通じて生産性向上と働き方改革に取り組んできました。行ってきた取組を客観的に評価いただくとともに、同様の課題を抱える事業者の参考事例になればと考えています。社内に向けても今後のDX推進の弾みにしたいという思いから応募しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか？

単なるIT導入ではなく従業員の業務の改善につながるデジタル活用をポイントに資料を作成し、成果は、「作業時間を〇%短縮」や「作業人員が〇人から〇人に削減した」等、できる限り数字で示すようにし、デジタル化は小規模な会社でも身の丈に合った取組と準備を段階的に行うことで、大きな成果を残せたことを記載しました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか？

受賞は弊社の取組が第三者から正式に評価された証です。先進事例として色々な場所で紹介され外部に発信されると、「デジタルに強い会社」「働きやすさを重視する会社」といったイメージ作りにも繋がります。従業員が、自分たちで行ってきたことが表彰されることで、社内ですらなるDX推進を展開したいと社内を考えています。

応募するプロセスが
社内の意識統一や
次の改善テーマの発見に
繋がります。

取組事例は
コチラから



代表取締役
福寿さん



お話を
聞いたのは



こうち
デジ活
アワード

2025

奨励賞

特定非営利活動法人 まあるい心ちゃれんじどの応援団

「原材料入庫から製造・梱包・出荷・販売までをハンディターミナル入力へ」

昨年度のこうちデジ活アワードに応募した理由は？

チャレンジド（障がい者）が地域に生きる一員・社会の働き手として、十分活躍できる力を備えていることを多くの人に知ってもらいたいと思い応募しました。

エントリーにあたって工夫したことはありますか？

原材料の入庫日や賞味期限のQRコード化、原材料使用量・作業日時・作業者名のハンディターミナルを介した記録、その後のデータ管理まですべてデジタルで一元管理していることを、いかに分かりやすく説明するかという点を工夫しました。

受賞してよかったことや社内の変化はありましたか？

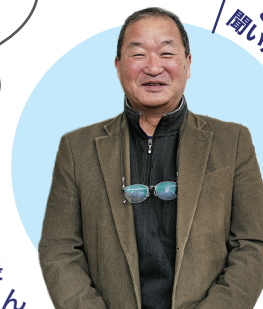
障がいのある人が働く現場でもデジタル活用が可能であり、誰もが安心して働ける持続可能な職場づくりにつながることを示した点で、大きな意味を持っています。

AI活用やデジタル化への
取り組みをぜひ多くの方に
知ってもらいましょう。

取組事例は
コチラから



理事長
杉野さん



お話を
聞いたのは